

高梨さんのCAREER STORY

- 1993.4 日本の私立大学経済学部入学
- 1996.4 ノースカロライナ州グリーンズボロ市ギルフィードカレッジ内の語学学校へ留学
- 1998.3 日本の私立大学経済学部卒業
- 1998.4 平塚市役所入庁。健康福祉部保険年金課へ配属
- 2001.5 カンザス大学へ派遣留学。経済学と社会学を専攻
- 2002.1 ローレンス市役所 Human Relations/ Human Resources Dept.にてマイノリティの雇用・住居に関する差別の実態調査・調停に携わる
- 2002.6 派遣終了。平塚市役所に戻り、市民部交流親善課へ配属



カンザス大学での派遣留学時代の写真。各国から来た留学生たちとカフェテリアで情報交換



大学3年次に留学したノースカロライナの語学学校。タイ、ブラジル、トルコなどから来た仲間と

高梨さんの1WEEK SCHEDULE

	午前	午後
月	・土日に来たメールの返信 ・市長あいさつの英訳	・在住外国籍市民との面談 ・課内ミーティング
火	・姉妹都市15周年記念式典準備 ・式典の通訳準備	・留学生市内企業訪問のための関係者との打ち合わせ ・企業案内の通訳準備
水	・大学関係者と留学生受け入れの打ち合わせ	・市役所で事務
木	・留学生の市長表敬訪問通訳 ・市内施設見学および通訳	・市内施設案内および通訳
金	・会議	・市役所で事務 ・国際交流協会留学生との市民交流会で通訳
土	休み	休み
日	休み	休み

「最近では日本に住む外国籍の方が増えているので、行政の窓口などでも英語を使う機会があると思います。」
その語るのは、神奈川県平塚市の職員、高梨大志さん(32歳)だ。彼は、市民部交流親善課という部署で、平塚市の国際交流関連事業の各種施策に取り組んでいる。「平塚市には現在、登録者だけで約5000人の外国籍市民がいます。ブラジル、フィリピン、中国、アメリカ、オーストラリアなど国籍は67か国にのぼります。最近では、南米系の人々、特にブラジルの方が増えていますね。」

高梨さんにとって、交流親善課でのひとつの大きな仕事は平塚市の姉妹都市であるアメリカカンザス州ローレンス市との交流事業である。「平塚市の公式訪問団派遣の手配やローレンス市の訪問団が日本に来る際の受け入れ体制準備の仕事などがこれにあたります。2004年のローレンス市制150周年の際には、市長に同行して、通訳現地コーディネーターとしてカンザスへの公式訪問を企画しました。チケット手配はもちろんです。現地の行程もすべてアレンジしました。」

その際の現地とのやりとりはEメール中心。毎日英語のメールを受け取る業務のなかで、自然に行政およびビジネス上の文書の書き方も身についたという。「日本でも英字新聞には必ず目を通すようにして、市制100周年など自治体関連の広告は必ずチェックします。そこから行政らしいあいさつやお礼の文面を学ぶのです。ただ、英語圏のEメールの文面は基本的に非常にシンプルで、3行くらいで文面が終わるものも珍しくありません。必要な情報をいかにわかりやすく伝えるのがより重要なんです。」

ローレンス市訪問では、平塚市長のスピーチの英訳原稿の作成や現地新聞社のインタビューへの対応も担当。英語力を思う存分発揮する機会となった。「平塚市の海外研修制度を利用して、アメリカの地方自治を現地ですぐに学べるのが、英語の出会い、大学時代にさかのぼる。学生のうちに、英語を集中的に身につけたいと考えていた彼は、大学3年次を休学し、アメリカ、ノースカロライナ州で10か月間の語学留

学を経験。私立大であるギルフィードカレッジのキャンパス内にある語学学校で英語漬けの日々を送った。帰国後、すぐに就職活動を開始。貿易関連の仕事をした彼は、倉庫会社や外資系通信会社などの内定を獲得する。さらに、民間企業の面接と並行して受けた公務員試験も見事にパス。悩んだ末、公務員の道を選んだ。「公務員を選んだのは、生まれ育った平塚市のために仕事をしたかったから。仕事で英語が使えたいとずっと考えていました。」

公務員の仕事に就いた高梨さんは、勤務3年目に平塚市の派遣による姉妹都市カンザス州ローレンス市での海外研修制度に応募。論文、面接試験などをを経て、見事その資格を得る。学生時代の留学「やり残し感」を感じていた彼は、人生2度目の留学をキャリアの延長線上で実現することとなる。「研修では、カンザス大学に13か月間通いながら、アメリカの地方自治を学びました。現地の自治体でのインターンシップでは、アメリカ系ヒスパニック系などマイノリティの人々の住居や雇用を安定させる仕事を現場で経験して、非常に勉強になりました。」

帰国後、交流親善課に配属になり、さまざまな国籍の住民たちが出入りする職場で多忙な日々を送る。いつも思うのは、英語を学んだからこそ、今の仕事でさまざまな国の人や文化との出会いを楽しむことができる。仕事の幅だけでなく、自分の考え方の幅が広がったのが、留学で得た一番貴重なものだと思っています。高梨さんは、今後ますます増えていく外国籍市民の多様性を受け入れる窓口として、市役所の中で大切な役割を担っている。



交換留学プログラムで日本を訪れたカンザス大学の学生が平塚市内を案内。市役所主催で市内の企業訪問なども企画した



平塚市国際交流協会が主催するイベントでは、通訳兼お手伝いとして参加する

英語を使う職業はさまざま。国際化が進む現在、幅広い職種で英語を使う機会が増えている。そこで、留学で英語を身につけた先輩たちの「シゴトの現場」をクローズアップ! 職場では、どんな風に英語が使われているのか聞いてみた。



「海外駐在経験のある市民の方などが中心となってボランティアで日本語教室を開講しています。運営にあたっては、平塚市国際交流協会という市民団体で、私自身が講師を務めるわけではありませんが、ただ、外国籍の従業員を抱える企業などから問い合わせがあった際の窓口対応は我々の仕事です。」

平塚市内にキャンパスを構える東海大学、神奈川県立大学に通う留学生と市民の交流イベントを企画するなど、留学生の受け入れにも力を入れる。毎年夏に開催されるカンザス大学、神奈川大学学生交流プログラムでは、日本研究プログラムの一環として自ら平塚市内の企業見学を手配し、通訳として同行したりもしている。「外国籍市民向けの平塚市の生活ガイドやゴミの捨て方を説明するポスターの作成なども担当しています。生活ガイドはポルトガル語、スペイン語、タイ語、タガログ語など8カ国語版を用意しています。」

Information

留学ジャーナルでは、就職や転職に関する相談を受け付けています。留学前、留学後はもちろん、留学中でもメールでご相談が可能です。カウンセリングは無料です。気軽にお問い合わせください。

キャリア相談メールアドレス
ryugaku@ryugaku.co.jp
0120-890-987

「ローレンス市制150周年記念式典のイベントにて、姉妹都市との交流は市役所の大事な仕事のひとつだ。」



ローレンス市制150周年記念式典のイベントにて、姉妹都市との交流は市役所の大事な仕事のひとつだ



カンザス州ローレンス市制150周年記念式典に平塚市公式訪問団として市長の通訳兼秘書として参加した

Career Talk

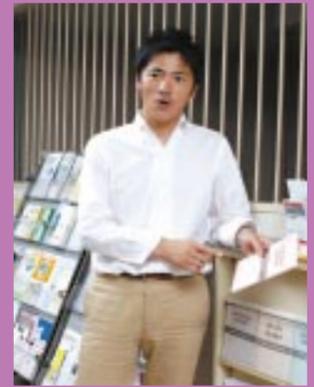
英語が生きるシゴト

Move Your Career

File 1

【今回のキャリア】

高梨大志さん(32歳)
Taishi Takanashi



英語を学んだからこそ、今の仕事でさまざまな国の人や文化と出会える

どんな現場で英語を使う?

~平塚市役所編~

平塚市役所では高梨さんの所属する市民部交流親善課で国内外の友好都市、姉妹都市との交流事業、外国籍市民との交流事業などを担当。外国人登録窓口を担当する市民部市民課でも英語(および多国語)対応業務が発生する。

平塚市
神奈川県ほぼ中央に位置する、豊かな海と緑あふれる丘陵を擁する平塚市。商業、工業、農業、水産業など、市内に多くの産業を抱えている。毎年、夏に行われる「湘南ひらつか七夕まつり」には、全国から300万人以上が訪れる。



http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/